

6校60人が白熱の試合

道肢体不自由養護体育大会開く

初 遠隔システムを活用

道特別支援学校肢体不自由教育校長会（会長・松井由紀夫手稲養護学校校長）主催の道肢体不自由養護学校体育大会が8月下旬、真駒内養護学校をメイン会場に開催された。本年度は、遠隔システムを活用し、メイン会場と2校をつないで実施。道内の肢体不自由養護

学校4校から40人、遠隔でつないだ2校から20人の合わせて約60人が出場し、各種目ごとに白熱した試合を繰り広げた。

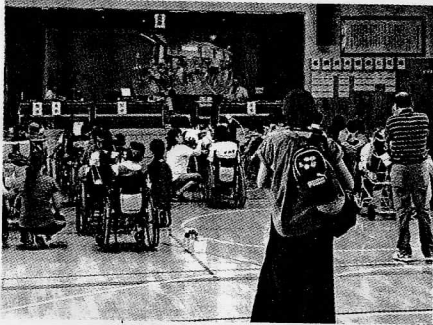
大会は、全道の肢体不自由養護学校児童生徒の心身の健全な発育を図るため、体育的行事を通して各学校

で学ぶ児童生徒の交流を深めることも、体力の保持増進を図ることがねらい。昭和61年から毎年開催しているもので、ことしで34回目を数える。

メイン会場の真駒内養護をはじめ、拓北養護学校、手稲養護学校、旭川養護学校の4校から選手約40人が参加。また、本年度は、試行的に遠隔システムを活用し、メイン会場と白糠養護学校、網走養護学校の2

校をつないで実施した。

開会式であいさつに立つ



た松井会長は、日々の練習の成果を存分に発揮し、一生懸命競技に臨むよう期待した。

続いて、真駒内養護中部3年の清野友奈さんが力強く選手宣誓した。

競技に移り、「車椅子30分折り返し走」「30メートル折り返し走」「申告レース」「テニスボール正確投げ」「バレーボール正確投げ（スロープなし）」「バレーボール正確投げ（スロープあり）」の6種目を実施。児童生徒は、保護者や教員、仲間たちからの大きな声援を受けながら、懸命に競技に臨み、各種目ごとに熱戦を繰り広げた。

メイン会場校となった真駒内養護学校